

コーポレート・ファイナンス ~責任者のメッセージ~

創業100周年に向け、
 第一歩となる「中計2026」の達成により、
 長期経営計画の実現を目指し
 着実な歩みを進めてまいります。

取締役 兼 常務執行役員 グループ統括室長 上野 勝

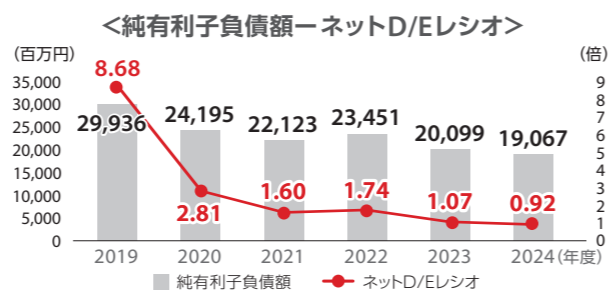


着実に進む財務体質の改善

紀文グループは、株式上場に向けて、減損損失の計上などバランスシートの調整を進めた結果、2019年度は非常に厳しい財務体質となりました。しかし、毎期の確実な売上高成長と利益率の改善を積み重ねたことと、2021年度に上場した際の公募増資により、2024年度には自己資本比率は28.7%までに改善し、中計2026で目標とした30%まであと一歩に迫っています。また、純有利子負債額もこの6年間で大幅に削減し、ネットD/Eレシオは健全の目安となる1倍を下回る水準となり、財務体

質の改善は、着実に進展しています。

紀文グループが株式上場を目指した理由の一つは、創業100周年となる2038年において「グローバルカンパニー」となるべく、大きく成長するためです。2024年度に発表した中計2026にも、その実現に向けた構想をしっかりと反映していますが、そのためには成長投資が欠かせません。財務体質の改善とバランスを取りながら、国内外での確実な成長投資の実施をしております。



ROIC (投下資本利益率) 経営の推進

中計2026では、ROIC経営の推進によりキャッシュ創出力を高め、将来に向けた成長投資の実現と株主還元の上昇を図っています。2024年度の連結営業キャッシュ・フローは約39億円で、前年度(55億円)を下回り、かつ目標とした50億円に届きませんでした。これは国内食品事業で原材料価格が上昇した影響により連結での営業利益が前年をやや下回ったことに加え、原材料価格の先高観から在庫を積み増したことが要因です。このような局面で最適解が選択できるよう、ROIC経営の浸透が必要であると考えています。ROICの向上には、NOPAT(税引後営業利益)の拡大と投下資本の効率化が求められます。まずNOPATの拡大に向けて、2024年度はグループ各社

が個別に行っていた原材料の調達を紀文産業に一本化し、効率化とボリューム拡大による調達力の強化を図りました。また、国内食品事業セグメントでB to C向けの事業を行う紀文食品・紀文西日本・北食を合併し販売力を強化するとともに、管理部門の効率化を図りました。全国体制となった紀文食品では、健康価値や利便性を高めた製品を積極的に投入してトップラインの拡大を図るとともに、SKU削減による効率化にも取り組んでいます。さらに全セグメントにおいて、AIやデジタル技術の活用により、自動化や業務改善を図っています。

投下資本の効率化のため、各事業・部門での意識向上のための施策も実施しています。特に運転資本の圧縮が

カギであり、中でも影響の大きい在庫削減に向けた取組みを推進しています。SKUの削減による原材料の回転率を上げることが解決策の一つであり、売上の季節変動を緩和し、需要期に備えた在庫の増大を抑制することも、その解決に繋がります。このように資本効率をいかに高めるか、各事業・各部門で何をすべきかを考え、ROICの

向上を追求する体質にしてまいります。

また、工場稼働率の向上のため製販一体となった営業活動・需要予測に基づく人員配置の最適化、予防保全による設備停止の回避等に取り組んでいます。さらに、可能な資産は売却を検討してまいります。

将来に向けた成長投資の実施と株主還元の上昇

中計2026では3年間のキャッシュ・アロケーションとして、キャッシュ・インの想定を155億円としており、これを成長投資に75億円、将来の投資資金としての留保に50億円、株主様への還元15億円、有利子負債の削減に15億円として配分する計画です。これらはキャッシュ・インの状況を見定めることが前提ではありますが、まずはROIC経営をしっかりと根付かせることで営業キャッシュ・フローを確保してまいります。

再編に向けた検討を進めており、その資金の留保も必要であると考えています。

前述のとおり、有利子負債の削減もネットD/Eレシオの改善も大きく進展していますが、依然として途上段階と認識しています。今後もバランスを取りながら継続して圧縮してまいります。

最後に株主様への還元につきましては、将来の事業展開と財務体質の強化を総合的に勘案しながら安定した配当の実施を基本方針としています。まだまだ十分な水準には到達できていませんが、上場以来、毎年増配を続けています。中計2026では、最終年度での連結配当性向20%を目標としましたので、まずはこれを実現するために全力で取組み、その先にさらなるご期待に応えられますよう、努めてまいります。

成長投資では、国内食品市場で伸長している竹輪の供給能力増強、パーティタイプのスリミ製品や新たなカニカマ等の新商品導入に向けた設備投資を、2024年度以降に行っています。これに加えて生産性の向上、供給能力の増強、環境負荷低減に向けた設備投資も行いました。今後も計画的に設備投資を実施してまいります。また、国内工場の老朽化対策と供給能力拡大のため供給機能

企業価値の向上に向けて

当社のPBR(株価純資産倍率)は1倍を上回っているものの、PER(株価収益率)は10倍を下回っており、いずれも東証プライム市場の食料品セクター上場企業の加重平均を下回っています。この改善には、株価を意識した経営を徹底することが必要です。

紀文グループの各社員がこれを意識し、長期経営戦略・中期経営計画でお示した成長戦略を確実に実行していく中で、投資家の皆様に紀文グループの成長への期待を抱いていただくことが必要です。そのためには、情報開示のますますの充実と、投資家の皆様との積極的な対話に努めてまいります。



<財務KPI>

主要KPI	2023年度実績	2024年度実績	2025年度見通し	2026年度計画
売上高成長率	6.5% (2020年度比)	2.2% (2023年度比)	8.6% (2023年度比)	12.9% (2023年度比)
海外売上高比率	11.1%	10.8%	10.5%	13%以上
営業利益率	4.4%	4.1%	4.3%	5.0%
自己資本比率	26.4%	28.7%	32.1%	30%以上
ROE	17.5%	13.1%	13.6%	15%以上
ROIC*	8.1%	7.9%	8.4%	10%以上
営業キャッシュ・フロー	年間55.2億円	年間38.6億円	年間50億円以上	年間50億円以上

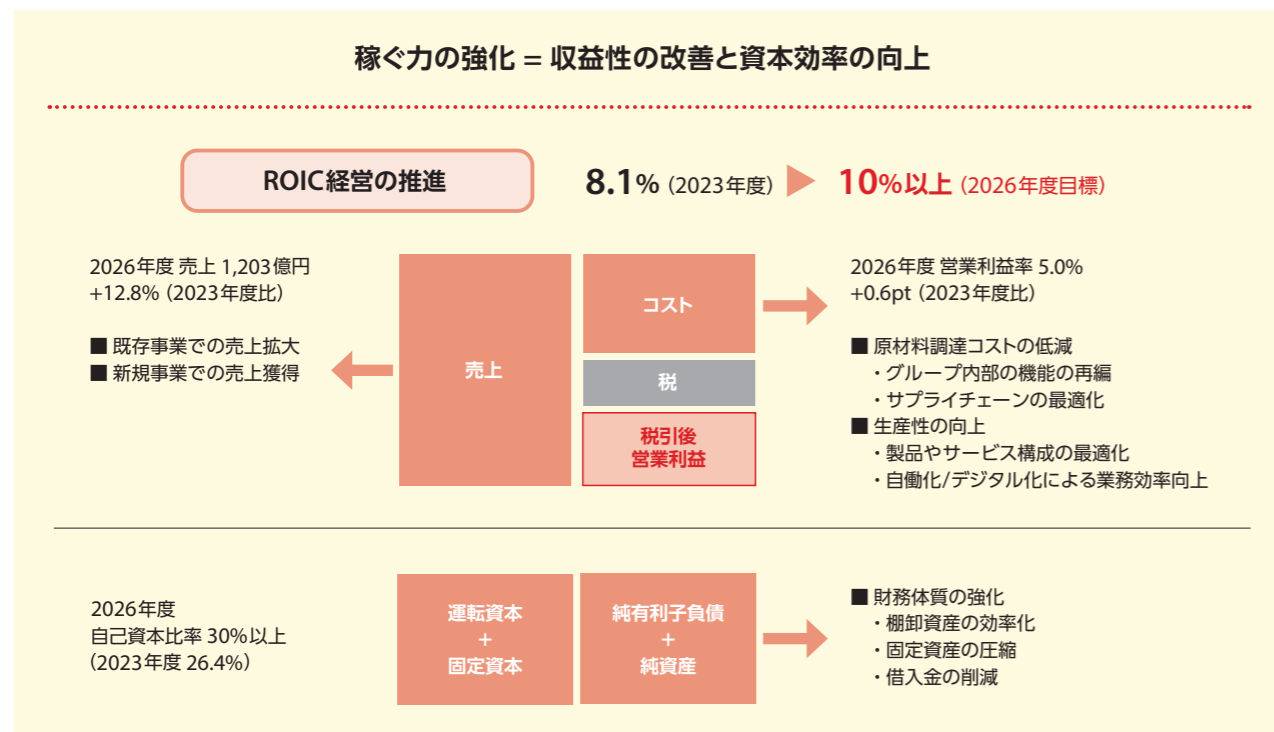
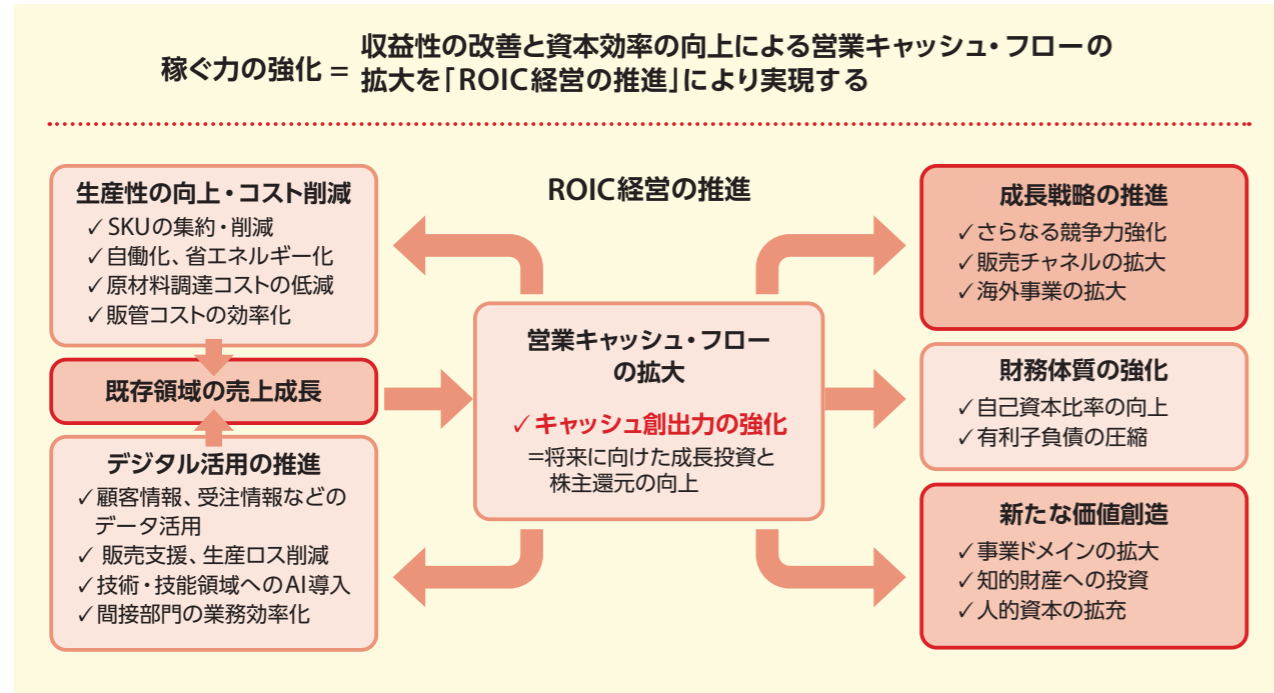
* ROICは、NOPAT ÷ 投下資本(純有利子負債+純資産)で算出

資本効率向上

◎ 資本効率向上に向けた取組み

紀文グループが思い描く、2038年の「目指す姿」の実現に向け、中計2026ではキャッシュ創出力を強化し、成長を促進する収益構造への進化を目指します。ROIC(投下資本利益率)の改善と資本コストを意識した経営を徹

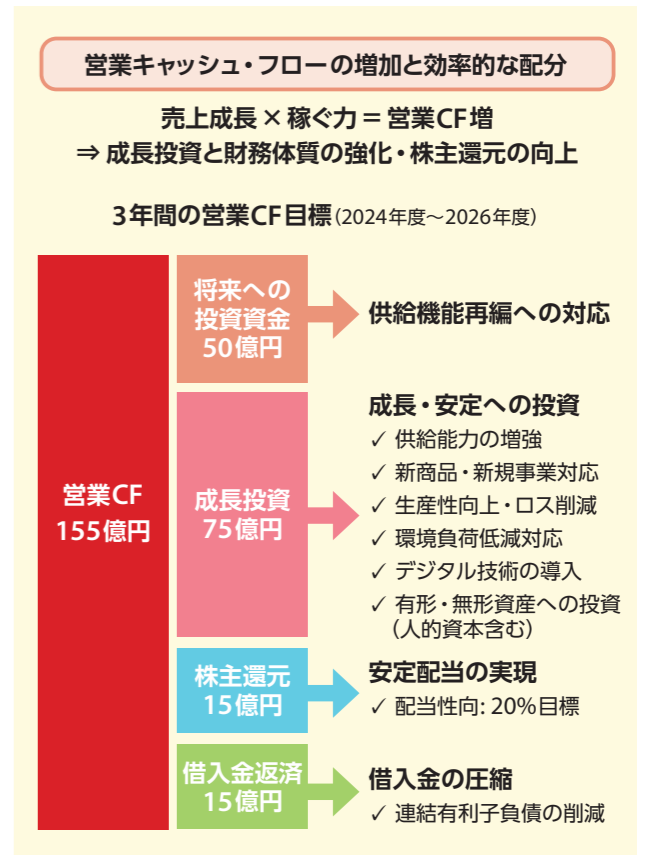
底し、戦略的な有形・無形資産への投資と効率的な運用を通じて、収益性の改善と資本効率を向上し、企業価値の最大化を図ります。



◎ 投資計画

売上拡大を通じた収益性の改善、運転資本の圧縮やコスト削減等を通じたROIC経営の推進により「稼ぐ力」を強化、創出した営業キャッシュ・フローで、将来に向けた成長投資と財務体質の強化・株主還元への向上を両立します。主な投資として、下記の内容を想定しています。

- 生産性の向上・コスト削減
 - 生産工程の自動化、省エネルギー化、環境負荷の低減
 - 間接部門等へのデジタル技術導入による業務効率化
 - 国内供給機能再編などを見据えた、将来の投資資金の確保
- 新たな価値創造
 - 「人的資本」への投資を通じた新たな価値の創造
 - その他の有形、無形資産への戦略的な投資
- 財務体質の強化・株主還元への向上
 - 連結有利子負債の削減による、自己資本比率の向上
 - 株主還元への向上



◎ 株主還元・配当政策

株主の皆様に対する利益還元は、重要な経営課題の一つと考えています。将来の事業展開と財務体質の強化のために必要となる内部留保を確保しつつ、業績及び将来の見通しを総合的に勘案して、安定した配当を継続して実施してまいります。

2024年度の年間配当額は、業績及び今後の事業展開等を勘案して、前年度の1株当たり17円から3円増配し、1株当たり20円の配当を実施しました。この結果、連結配当性向は17.6%となりました。

中計2026の期間中は、紀文グループが「目指す姿」の具現化に向け、成長分野への投資や自己資本比率の改善等に優先して取り組むべく、連結配当性向20%を目標水準とし、事業成長に合わせた利益還元への向上に努めてまいります。

<年間配当額、連結配当性向>

